

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0970800694		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	栃木県小山市羽川524-1 (電話) 0285-20-6211		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成19年12月13日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはデイサービスセンターと小規模多機能型居宅介護事業所と併設されており、職員間の連携も含めて一体的な運営をしている。庭には柿やブルーベリーなどの木が植えられていたり、一角に畑を設けて収穫した野菜を近所におすそ分けしたりしている。ホームで救急救命士による講習を実施し、近所の方にも参加を呼びかけたり、ホームでの行事の際に近所の方を誘ったりと近所づきあいのなかから地域との関係を深めていっている。職員は明るく、また風通しのよい雰囲気があり、チームワークの中で入居者の生活を支援している。入居者からの声や職員の活力にもつながっており、入居者と職員が支えあいながら生活している。カーペットをフローリング状のものに変えたり、次亜塩素酸の加湿器を使用したり、2階の方の避難経路確保のために避難用すべり台を取り付けるなど安全・安心にも気を配っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を運営推進会議に報告してメンバーの意見をもらっている。火災等の際の避難策として2階からのすべり台を取り付けたり、衛生面への配慮等からリビングのカーペットの素材を変えるなどの改善を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員に聞きながらホーム長がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には地元の中学校の校長、地域包括支援センター職員、入居者及び家族が参加している。入居者はその都度異なる方が参加し、その家族に参加を呼びかける形をとっている。会議ではホームの取り組みを紹介しメンバーから意見をもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や電話で暮らしぶりや健康状態を家族に報告している。玄関先には入居者ごとのアルバムが置かれていた。毎月、請求書を送付する際に預り金の出納状況と行事予定を送付している。職員の異動等があったときは家族の訪問の際などに紹介している。ホームの行事や一泊の温泉旅行に家族も誘っている。面会などの際に家族からの意見等を聞いたり、運営推進会議に家族にも交代で参加してもらっている。ホームの苦情受付窓口がホーム長になっており、重要事項説明書に明示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の範囲が広いこともあって、隣保班や近所の単位での付き合いを深めていくよう努めている。日常的なあいさつのほか、ホームで開催している救急救命士の講演に近所の方を誘ったり、自治会のお祭りに参加している。ホームで栽培している野菜を近所におすそ分けすることもある。保育園、中学校等との交流もある。

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤10人(うち兼務2人), 常勤換算5.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての1~2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,700 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—個人負担 ・おむつ代—個人負担 ・光熱費—6,000円 ・運営管理費—18,000円 ・送迎費—1 kmあたり20円 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
または1日当たり		円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月28日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2		3 名	
要介護3		2 名	要介護4		2 名	
要介護5		1 名	要支援2		名	
年齢	平均	82.6 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	海老原医院、木村クリニック、永井歯科医院
---------	----------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員からの意見をもとに「自発性・自立性を高め、向上意欲を引き出す介護」、「個々のスキップと地域社会との繋がりを大切にする介護」、「安全を守り、生活を楽しむゆとりの介護」をホームの運営理念としてつくった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に、運営理念と職員の心得（利用者のプライドを傷つけない、言葉づかいに注意する、家族との連絡は密にする、気付きは早めに、報告・連絡・相談の徹底）を読み上げ、また日々の実践の中で確認しながら日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の範囲が広いこともあって、隣保班や近所の単位での付き合いを深めていくよう努めている。日常的なあいさつのほか、ホームで開催している救急救命士の講演に近所の方を誘ったり、自治会のお祭りに参加している。ホームで栽培している野菜を近所におすそ分けすることもある。保育園、中学校等との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を運営推進会議に報告してメンバーの意見をもらっている。自己評価は職員に聞きながらホーム長がまとめた。火災等の際の避難策として2階からのすべり台を取り付けたり、衛生面への配慮等からリビングのカーペットの素材を変えるなどの改善を図っている。		

グループホームふれんど

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地元の中学校の校長、地域包括支援センター、入居者及び家族が参加している。入居者はその都度異なる方が参加し、その家族に参加を呼びかける形をとっている。会議ではホームの取り組みを紹介しメンバーから意見をもらっている。	○	救急救命士の講習会やバーベキュー等のホーム行事に近所の方を誘うなど近所との付き合いを深めていることから、地域での認知症ケアの充実をより一層図る意味でも地域の方の参加や市の担当者の参加を検討してみたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長が窓口になって市に相談ごとをしにいたり、自己評価を届けるなどして連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話で暮らしぶりや健康状態を家族に報告している。玄関先には入居者ごとのアルバムが置かれていた。毎月、請求書を送付する際に預り金の出納状況と行事予定を送付している。職員の異動等があったときは家族の訪問などに紹介している。ホームの行事や一泊の温泉旅行に家族も誘っている。	○	家族への情報提供を更に充実させる意味でもお便りやホームだよりの発行の検討に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などの際に家族からの意見等を聞いたり、運営推進会議に家族にも交代で参加してもらっている。ホームの苦情受付窓口がホーム長になっており、重要事項説明書に明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは法人内のグループホームの人財育成機動的な役割も担っており、法人内の新しいホームへの職員の異動もある。職員が変わるときは、入居者に説明し、職員が移動した先のホームに入居者と一緒に訪れるなどしている。		

グループホームふれんど

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修には計画的に職員を参加させている。法人の顧問（医師）が法人内の各事業所で勉強会を開催し、他の事業所で開催する際にも参加できる。外部研修を受講した際には、2ヶ月に1回開催する職員会議で報告して研修内容の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。ホームの開設前には県内の他ホームで実習をした。法人として当ホームを含めて4ヵ所のグループホームを運営しており、管理者会議などで情報交換をしている。	○	地域密着型サービスとして市内の他のグループホームとのネットワークづくりをしていくことにも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間の泊まりも含めたお試し期間を設けたり、入居当初は家族と連携をとりながら、ホームでの生活に徐々に馴染めるように配慮している。入居者間の関係性にも配慮し、職員が仲立ちするなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年月の経過と共に介助の度合いの高まっている様子もうかがえるが、入居者のできることを踏まえて一緒に行っている。入居者と職員がお互いを気遣い、職員も入居者の言葉に支えられるという関係性がある。		

グループホームふれんど

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で思いや意向を把握するように努め、困難な方には家族からの情報や生活歴などから検討している。研修受講をきっかけに1名についてセンター方式のアセスメント方式を実施した。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望、職員の意見、医師の指示などを踏まえて介護計画を作成している。施設長（兼介護計画作成担当者）は、併設のデイサービスセンターと兼務しているが、毎朝ホームで食事をとっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的（当初は3～6ヶ月、その後変化がない場合は1年間）の見直しのほか、入院等で状態の変化があったときは随時見直しをしている。	○	センター方式の活用も検討しているので、「生活」に視点をおいた目標設定を増やしたり、日々変化する生活の中で目標の見直し期間についても検討していくことを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1kmあたり20円で送迎（通院等）を設定したり、家族を含めての1泊旅行を行ったりしている。法人としてグループホームとデイサービスセンターをなるべく併設する考え方があり、当ホームもデイサービスセンターと併設になっており、お風呂を借りたりと連携を図っている。		

グループホームふれんど

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師と綿密な連携を図りながら、かかりつけ医のある方も適切な医療が受けられるよう支援している。毎週、協力医療機関の医師の往診があり、顧問の医師も3週間に1回ホームに来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介助の度合いが高まっても本人の意向、家族の協力や主治医の意見等を踏まえてホームでの生活を支えていこうと努めている。訪問時にも手引きをして職員が歩行を支えている姿が見られた。これまでにホームで最期を迎えられた方やギリギリまでホームでの生活を支援したことがある。	○	職員間の確認の意味でも、運営者も含めて終末期ケアや看取りについて、どういう時にどこまで対応する(できる)か等について指針としてまとめておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員心得の中に「利用者のプライドを傷つけない。(否定はせず、受容)」、「言葉づかいに注意する。」を掲げ、毎朝の申し送り時に確認している。職員は入居者に穏やかに接していた。書類の管理も適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にして柔軟な支援に努めている。		

グループホームふれんど

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の経費負担も考慮して、職員はご飯だけを各自用意しておかずは入居者と同じ物を一緒に食べるように配慮している。食事づくりや配膳等は入居者と一緒に行うことが難しくなっているが、下ごしらえや食器重ねなど、入居者のできることを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人・家族の希望を聞いたうえで、併設のデイサービスセンターの大きな風呂を借りて、月～土曜日の午前中に入浴を支援している。ホームの浴室・浴槽は家庭用のものとなっており、そちらでの入浴支援もできるが、今のところ本人・家族の希望はない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前行っていた庭掃きなど、入居者と一緒に行うことが難しくなったりもしているが、昼食後には塗り絵やドリルなどを楽しむ姿が見られた。昔なじみのオルガンを自宅からもってきて楽しんでいる方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先に庭や東屋があり、天気の良い日には外でお茶を飲んだり、体操をしたりしている。一泊の温泉旅行や月1回程度の行事的な外出も取り入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は入居者の状態によって家族の了解を得た上で一時的に鍵を閉めることもあったが、今は日中は鍵をかけていない。		

グループホームふれんど

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回避難訓練を実施している。2階の方の避難経路確保のためにすべり台を取り付けた。ホームで救急救命士の講習を実施し、近所の方にも参加を呼びかけて、緊急時や災害時の対応について学んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は宅配業者を利用しており、栄養士の作成した献立にはカロリー表示もされている。食事摂取量、水分摂取量も把握し、適切な栄養・水分補給ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節の飾り付けをしたり、要所に手すりを取り付けたり、次亜塩素酸の加湿器を使うなど季節感や衛生面に配慮している。一日を通して、テレビではなく適度な音で音楽をかけて会話を楽しんでいた。室温調整に気を配りながら窓の開け閉めで換気をしており、空気のよどみ等もない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを持ち込んでもらうように伝えている。オルガンやイスなどを持っている方がいたり、家族の写真を飾ったりとそれぞれの居室づくりがされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。